

最優秀

「苦手」を「個性」として

旭中学校 3年

山本 やまもと

瑞希 みずき

皆さんは「普通」という言葉の意味について考えたことがあるでしょうか。私は、中学二年生の時に行われた職場体験を通し、このことについて考えました。

私は、放課後等デイサービスを行っている学童施設に職場体験に行きました。そこには自閉症などをもった子が多くいました。私の職場体験先を知った友達が「私は普通の幼稚園が体験先でよかった」と言いました。体験先に不安を持っていた私は、つい「いいなあ、普通のところだ」と言ってしまうました。職場体験の前日は、不安でいっぱいよく眠れませんでした。

体験先には、色々な性格の子がいました。物知りで面白いことを教えてくれる子。絵を描くことが好きな子。当番の仕事を積極的にやる子。みんな元気で優しい子ばかりで、すぐに仲良くなることができました。そして、職場体験の三日間はあっという間に過ぎ、始まるまでに感じていた不安が嘘のように、達成感と思いが心に残っていました。

会話が得意ではない子。同じことを何度も繰り返してしまう子。体験先でお世話になった先生は「普通なら簡単にできるようなことでも、この子たちは苦手意識を持ってしまおう」と話していました。私は、職場体験に行くまで、自閉症をもつ子たちの「苦手意識を持つ部分」しか見てなかったのだと思います。誰にでも苦手なことはあるのに、私はなんて浅い考えをもっていたのだろうと思いました。

私は、職場体験に行くまでは、「普通」という言葉をよく使って

いました。ですが、その簡単な言葉や自分の勝手な価値観でその人の本当の人の柄や性格を押し量ってしまったのではないのでしょうか。

この職場体験を通し、「普通はこうだろう」と考える基準は人それぞれだということ、そして「普通」の価値観は人に押しつけてはいけないと思えました。どんな人にならなくて苦手なことはありません。ですが、その苦手なことを「普通なら…」と否定されたらどうでしょう。きつと誰でも、傷ついて悲しい気持ちになると思います。

完璧な人など存在しません。誰にだって苦手なことや欠点があります。でもそれを「普通」という簡単な言葉で決めつけずに、個性として受け入れる。それが大切なのだと思います。

全く同じ人など存在しません。「普通」という言葉を調べてみると、「特に変わっていないこと。それがあたりまえであること。」と書いてあります。「普通」という言葉の本来の意味はそうかもしれませんが、私は「普通」の感じ方や価値観は人それぞれ違うと思います。

私は職場体験に行くまで、将来やりたいことが何もありませんでした。でも今は、自閉症などをもった子どもたちを支える仕事があったと思っています。そしていつか、苦手なことや欠点を個性として受け入れることのできる人が増えれば、「普通ならこうだろう」と決めつけることもなくなるでしょう。そして誰もが安心して幸せに暮らすことのできる社会の実現につながっていくと思います。